



幼 児 の 性 教 育

— 保育に携わる人に —

平 井 信 義

お手紙ありがとうございます。お元気で毎日の保育にいそまれている由、心からお喜び申します。たゞ、汗つかきの貴女ゆえ、この暑いのに終日かけ歩いていると伺うと、貴女の顔より汗の方が目底に映りますよ。どうぞ体に注意して頑張つて下さい。貴女の様な張切りは、あとから疲れない様、合理的に働くことも忘れないで下さい。暑いとビタミンの消費も多いから、充分補つて下さい。

さて、あなたからの性教育についての御質問、本当に性教育は頭の中で考えると易しいが、いざとなると難しい点が沢山ありますね。私も幼児の性教育についていろいろ考えてみて、一つの体系をつかんだ積りでいるのに、いざ面と向つて子供たちから問題をぶつけられる

と、はたと当惑することがしばしばです。昨日も私の子供と入浴したとき、二番目の子供が、体をふいている私の体の一点をしげしげと見ているのです。思わず私は手拭でそこを被つてしまつた、そしてすぐそのあと「しまつた！」と思つたのです。

そんな時こそ性教育のよいチャンスだ、というのが私の日頃の主張。見たい様子があるときは見せる、もしさわりたいたい様にして手を出したらさわらせる——こんなことをしばしば話もし書きもして来たのです。そのよい手本として、亡なられた星野鉄男教授が、御自分のお子さんと交した朝の絵話を思い出しています。御存じですか。「太郎ちゃん、ちんこが大きくなつているね、しつこでたいんでしよう、早くいつてきましよう」といつて用便させ、後しばらくねものがたりをしているうちに、私が何の気なしに、「パパもしつこが出たくなつた」という

と、「パパもしつこ出たいの？ちんこ大きくなつた？」というので、これはと思つたが、「ああ大きくなつたよ」と答えると、「パパのちんこさわつてもいい？」という珍問を發しました。これはと驚きましたが、私は非人情になつて答えます。「ああさわつてもいいよ」「パパー随分大きくなつてゐるよ。早くいつていらつしやい」「パパ、もうおしつこして来たの、もうちんこ小さくなつた？」「ああもう小さくなつたよ」「もういちどさわつていい？」「ああいゝよ」「ほんとうだ。小さくなつたね、パパ」——この会話を聞いてあなたはどうお考えですか。私には素晴らしい会話だと思えるのです。

2

ところがこんなときに一般の親はどういう態度に出るでしょうか？「そんな下品なことをして！」と、もし手を伸して親のおちんこにさわらうものなら大変ですね。

その手を打つ、或いは灸でもすえかねない勢です。

では、どうしてこの様な二つの態度が生れて来るのでしょうか。

第一に、一体私ども大人に、生殖器に対する正しい理解が出来ているかどうかという問題です。妙な質問になりますが、あなたは生殖器を貴重なものと考えますか、或いは不潔なものと考えますか？——大抵の親は「不潔

なもの」という考えに把えられて、「貴重なもの」という考え方を捨ててしまつてゐます。もち論、考え様によつては、生殖器にも不潔な面があります。殊に男の子の陰茎は人体で使われた成分の残滓を排泄する器官でもありません。又、生殖器を用いて人間は人倫に対してよくないことを行うことがあります、それによつて悪いいまわしい病氣などが附着することもあります。しかし、それは「手」だつて同じことだと云えましょう。盗みをする、暴力をふるうなど人倫にもとる行動は、手のすることです。しかしその際に私共は、その人の手を責めないで心を責める——生殖器も、生殖器が悪いのではなくして、みだらなことに生殖器を使う人の心の問題なのです。こんなわかり切つたことが、實際問題に直面すると、逆転してしまふのですね。

それにも理由があります。私共は小さいときから、くり返しくり返し「生殖器」はきかないもの、不潔なもの、と教え込まれていからです。「そんなバツチなことをして」「下品なことを言つて」「助平」などと、生殖器に関する一切切劣等視して教えられて来たことを思い出しますね。生殖器に関することで、「いゝこと」は一つも教えられなかつたのですから。

3

それより重大なことは、もし生殖器がなかつたら、どういふことを真面目に考えてみることを忘れてゐることです。もち論私たちは生れて来なかつたでしようし、人類はとつくと滅んでしまつたでしよう。私たちに生殖器があり、それによつて生殖行為を行へる様にして下さつたのは神様であります。先づこのことを考えて、どこまでも生殖器を大切にす——生命の次に大切にすることを考え、子供にも教えていきたいものと思ひます。私たちが性教育をもつと積極的に、もつとフランクにするこの出来ないのは、まだまだ生殖器に対する尊厳さを自覚してゐないことから起るものと思ひます。

尊厳さを自覚するには、どうしても生殖に関する知識を充分に持つ必要があります。私も医者になつて人体の構造を知り、生殖器の構造や生理を深く学ぶにつれて、初めてその神秘に驚いたのであります。ところがこうした知識を正しく私達に与えてくれる者がいない。本が極く少い。それにも増して、生殖器に関することを学ぶことは、何か非常に気のひけることに思ひます。そうした本を読んでいても、人が入つて来るとかくしてしまふのが普通と思ひます。私たち大人でさえ、正しい知識を得るのにどうしたらよいか戸惑ひしてしまふ程で、どうして子供に對しよき教育をすることが出来るでしよう。こゝに簡単に子供の性教育が実践できない源がある

と思ひますがどうでしよう。

4

次の問題は、子供の性的興味をどう考えるかということ。性的な興味は子供の年齢と共に、次第に増して来ますが、それでも幼児期には僅かであり、青年期に飛躍的な発達を遂げる——之は血液の中のホルモンを計算しても同様なカーブが得られます。ところが私たち大人は子供の性的興味を必要以上に過大視してゐます。子供の性的興味は、どこまでも珍らしいもの、新しいものに對する興味は主で、それに少しづつ性的色彩がつき始めてゐるといふ種類のものです。先程例に挙げた様な、親の生殖器をじつとみてゐる、或いはさわつてみたか思ふ心は、大人が考へてゐる様なうすぎたないものではないのです。もしその際に「そんな下品なこと」と叱るならば、子供にうすぎたなさをわざわざ教え込んでゐる様なものでしよう。又、いそいで隠す様なことをすれば、子供は急に鋭い興味にかわるでしよう。かくされたものは、お菓子でもその他のものでも、一層欲しくなつて探すのは当然でしよう。大人だつてそうですね。貰えないとなると余計に欲しいとなるのは人間の心理ですね。

大人は生殖器のことになると、結局、ちらちら見せてはかくされてしまふ、というのが子供の不思議でしよ

う。更に積極性を示せば一言のもとに叱られる。——これでは他の場処で興味を満足させること以外に方法がなくなるでしょう。

出来るだけ性的なものを子供の目の前から除去つて、子供の興味を持たせない様にしたら——これはいつも出る話です。が、どうでしょう、そんなことが出来るでしょうか、自分の子供たちに対して、そんな自信を持つことは出来ません。世の中には性的な興味をひくものは沢山あるのですし、私たち親も、子供の前にかくしおけない生活の部分が沢山ありますから。

5

それに、性的興味を持たせない、ということ事態がおかしな話ではないでしょうか。性的興味は天与のものであります。之がなければ、やがて男性と女性とが牽引しないでしょうし夫婦生活の営みも難しくなるでしょう。

どうも、子を持つ親は、教えにくいこと、扱にくいことには、子供が無知であることを望み、而もその結果だけはよかれ、と望むものであります。性的なものは知らせない、男女も引合つて欲しくない、そして与えられた結婚生活だけをして欲しいなどと、こんな無謀を敢て考えているものです。こんな誤つた話はありません。よい成果を得るにはよい教育が必要です。性的興味をよく

指導する、——これが大切なことは分つていたけれどしようか。

子供には日々新たに性的な興味を持つてくる、之を私たちは成長の過程として祝福する一方、正しく指導するためにはどうしたらよいかを、いろいろ考えた。しかも、旧来のゆがんだ教育が方々で待ち構えているから、それに対抗するためには、こちらの決意も聞かないと失敗を招くことになりましょう。前にお話した星野先生の例は、正しい決意の下に、幼児期の性教育過程を無事に「卒業」させることが出来た、と申してもよいでしょう。

「卒業」させる、という言葉はいゝ言葉でしょう。僕は一人で得意になつていますが、教育に、子供の性的興味という流れに対して無駄なせきを作つて、いつまでもそこにプールを作ることのない様——そうすれば、その興味は淀むことなく大海というゴールに到達するでしょう。この考えはフロイドの考え方ですが、性教育にはぜひ利用していきたいと思ひます。之は理論よりも、むしろ決意といえましょう。

具体的にどうしたらいいか、今度お目にかゝつたときにお話申します。お互に手を取り合つて、子供の幸福を願ひましょう。

くれぐれも御体を御大事に。